

日本における令和6年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



子どもの権利の先駆者「コルチャック先生」を知っていますか？

ヤヌシュ・コルチャック（本名ヘンリック・ゴールドシュミット）は、子どもたちのために生涯を捧げたユダヤ系ポーランド人医師であり、「子どもの権利条約の父」とも呼ばれます。

1911年にユダヤ人孤児のための*1「ドム・シエロット」の院長に任命され、子どもたちの教育に力を尽くしました。孤児院では子どもたちによる議会が作られ、意見を発表する新聞を発行するなど、子どもたちの自治が尊重されていました。

コルチャックは、第二次世界大戦中、孤児院の子どもたち約200人と一緒にトレ布林カ絶滅収容所に送られ、非業の死を遂げましたが、「子どもは生まれたときからおとなと同じ一人の人間であり、その権利が尊重されなければならない」とするコルチャックの考えは、1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約*2」に受け継がれています。

*1 現在の児童養護施設 *2 日本は1990年に署名し、1994年批准した。 < こどもの権利のためにーコルチャック先生とこどもたち より >

子どもの権利条約とは

～ 世界中の子どもたちが、安全な環境で、安心して、自分に自信をもって

生活するために守られるべき権利について定めた世界の合意・国際法 ～

世界中のすべての子どもたちを守り、子どもたちが子どもたちらしく、健やかに育つことのできる社会を作るため、1989年に国連で「子ども権利条約」が作られました。この条約によって、**子どもが権利の主体**であることが定められて以降、多くのこどもたちが学校へ通えるようになったり、児童労働から解放されたりしました。また、この条約は、成長する途中にあり、弱い立場にある子どもの権利のために果たした功績をたどりながら、「**子どもの最善の利益を最優先にする**」という理念にもとづいて作られました。

<子どもの権利条約の4つの原則>

差別の禁止（差別のないこと）

すべての子どもは、子ども自身や親の人権や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）

子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。

生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

子どもの意見の尊重（子どもが意味のある参加ができること）

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。